

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	プロジェクト・ベースド・ラーニングを活かした地元企業との協働プロジェクト				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	国保 祥子
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	国保 祥子

講演題目	プロジェクト・ベースド・ラーニングを活かした地元企業との協働プロジェクト
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>① 研究目的 国保研究室では、3年次のゼミ活動をプロジェクト・ベースド・ラーニング形式で実施している。学外の企業やNPOから与えられた具体的な経営課題をプロジェクト課題として半年間とりくみ、学期毎に公開報告会を開いている。ご協力いただく地元企業との協働にあたっては、地域のネットワークと支援実績が豊富なNPO法人ESUNEの力を借り、協働先の紹介や、プロジェクト期間中の企業とのコミュニケーションを支援していただいた。プロジェクト学習の内容については教員が指導するが、協働先企業との関係構築の部分ではこのような第三者の支援を得ることで、学生にとっての高い学習効果と、企業にとっての価値のあるアウトプットの両立が可能になると感じている</p> <p>② 成果 2023年度は、前期にトヨタユナイテッド様（新卒採用戦略）とICLA（若者の挑戦環境づくり）、後期にトヨタユナイテッド様（社会貢献活動の評価軸の提案）と不二化成品様（組織内コミュニケーション改善）、フジ物産様（マグロ船の採用戦略）、エルユーエス様（介護事業の採用戦略）、ふじのくに未来財団様（若者を対象とした企画立案）と、のべ7団体との協働プロジェクトを実施し、最後は提案にまとめてプレゼンテーションをした。大きなトラブルも無く複数のプロジェクトを全うすることができたのは学生と企業のコミュニケーション支援を担ってくれたコーディネーターの存在が大きい。</p> <p>③ 今後の展望 昨年度までの課題を改善して実施したこともあり比較的問題なく実施できたが、企業側はすぐに現場で活用できる具体的な提案を期待しているという場合もある。しかし学生に対する学習効果としては本質的な課題を見つけることに重点を置く必要があるため、企業側からの期待値を適宜調整する必要がある。こうした実社会でも高く評価される成果と学生への学習効果を両立するためにはプロジェクトのコーディネートが重要であると感じている。</p>